

令和2年度(2020年度)第2回経営戦略会議の概要

議 題	1. 令和元年度の決算見込みと今後の財政運営について 2. 経営戦略方針の改訂について
日 時	令和2年(2020年)7月10日(金)10:00~11:00
場 所	豊中市役所 第一庁舎3階 第二応接室
出席者	市長、副市長、都市経営部長、総務部長、財務部長、教育長、教育監、危機管理監、福祉部長、健康医療部長、こども未来部長、市民協働部長、都市活力部長
概要	今後の財政運営、経営戦略方針の改訂についての意見

<主な意見>

●令和元年度の決算見込みと今後の財政運営について

- ・ 今回の危機においては過去と比べて基金がある程度あり、市債残高が低くなったタイミングである点異なるが、それでも令和2年度で税収が13億マイナスの見込み。固定資産税などの徴収猶予が響いている。この後、法人市民税の減も予想される。
- ・ 令和3年度は個人市民税収入の減も加わり、60億の歳入減が見込まれる。地方財政措置で理論上の財源保障をされるとしても、15億はマイナスになり、過去を上回る。
- ・ 1~2年は基金を充てることになれば、少しタイムラグが生まれる。この間に次の発展につながるような改革と、投資の重点化に向けたエビデンスの強化が必要。
- ・ 国の骨太の方針原案には、毎年度明記されていた地方の一般財源の確保という文言が入っておらず、一般財源全体が減らされるか、最大限に効率化している団体を基本に財源保障するという、より悪いシナリオも考えておかなければならない。現状は理論どおり確保される予定で見込んでいる。
- ・ 扶助費の伸びの想定は、今の事業計画を基にしているので、コロナ禍の影響で各扶助費が増えるという要素は盛り込んでいない。これまで扶助費が伸びてきた内訳と、今後、コロナ影響も加味した推計を福祉部と財務部で連携し試算する。
- ・ 次のステージに移行するための決定的な改革について、各部局長から提案してもらい、都市経営部で取りまとめ報告すること。

●経営戦略方針の改訂について

- ・ コロナ禍によって人の交流が阻害されたが、逆にオンラインで代用可能な面が見えてきた。

- ・ これを機に、市民が市役所に来ていただくなくても行政サービスが提供できるよう、デジタル化を早急に進めていく。
- ・ 市長からデジタルガバメント宣言を8月に発出し、それに基づいてデジタルガバメント戦略を打ち出す。
- ・ 福祉部としては、デジタル化の一方で、対面支援を忘れてはならないと考える。
- ・ コロナ禍の状況をふまえた「福祉の宣言」をぜひ出してほしい。
- ・ デジタル化の推進は、「できるところから始める」「希望する人にオンラインサービスを行う」というものではなく、デジタル化を進めることはマストであり、「できない人には支援を行っていく」という考え方に立ってほしい。
- ・ 個々の部局でデジタル化を進めるというのは費用や効率化の観点から難しいため、共通事項として1部局でとりまとめてほしい。
- ・ オンライン申請のプラットフォームは総務部で作成し、各部がそれを利用する想定である。9月の補正にあげるため、出来るだけ早く全部局にヒアリングしていく。
- ・ 戦略2で挙げているとおり、必要に応じて可能な部分は柔軟に組織を見直し、それに伴い、随時人事異動を発令する。